

疣贅とは、「ゆうぜい」と読み、いぼのことです。辞書には「疣はいぼで、贅はこぶ、無用なものたえ、役に立たないものを意味する」と書かれています。医学的には「角質層が肥厚してできる小さな突起物」を意味します。皮膚科でよく見るいぼには、尋常性

疣贅、伝染性軟属腫（みずいぼ）、老人性疣贅などがあります。

尋常性疣贅はヒト乳頭腫ウイルスによって起ります。四肢の末端、足底、膝などによくでき、表面がざらざらしたやや硬い隆起する腫瘍です。できる部位や形によって青年性扁平疣贅、尖圭コンジロームと呼ばれ、一部

のものは癌との関連もあります。治療はいろいろと工夫されていますが、液体窒素による凍結療法が一般的です。

伝染性軟属腫は伝染性軟属腫ウイルスによって起こり、幼小児の体幹、臀部、陰部などによく見られます。ひとつひとつ

いぼ(疣贅)のいろいろ

西尾皮フ科クリニック

院長 西尾 達 己

若松区中川町9-14

☎752-1211

出来はじめに痒いことが多い、逆にカユミがあるときは進行中だともいえます。このカユミのために引っ掻くことで周囲に湿疹様変化を起こすことがあり、この場合は外用剤での湿疹の治療を先にする場合もあります。みずいぼ自体は普通の外

は米粒大位の赤いぶつぶつで、よく見ると中央が陥凹しているものもあります。中には白色の粥状物が入っており、これがウイルスの塊で感染源となります。自然に治ることもありますが時間がかかり、その間に広がったり他人にうつすことがあるので、早めの処置が必要です。

用剤では治りませんが、乾燥させる作用の強い外用剤や酸などの強い腐食剤を使うこともあります。一般的な処置としては、ピンセットなどでつまんで中の粥状物を圧出し、処置することをおすすめします。

より関係がありません。一種の皮膚の老化現象で、主として中年以降に、顔、頭、体幹などに多発してきます。ひとつひとつは米粒大から豌豆大の茶褐色の腫瘍で、表面は少しざらざらしています。さわってみると尋常性疣贅より軟らかい感じがします。悪性化することは少ないのですが、邪魔になったり美容上の問題などから処置をします。大きいものは手術、小さいものは電気メスでの切除や液体窒素での凍結療法などをします。いぼと思っていたものが悪性腫瘍、ウオノメと思っていたものが疣贅であることがしばしばあります。おかしいなと思ったら、かかりつけの先生に相談するか、皮膚科専門医を受診することをおすすめします。